

第2章 本市の概況

1. 位置・地勢

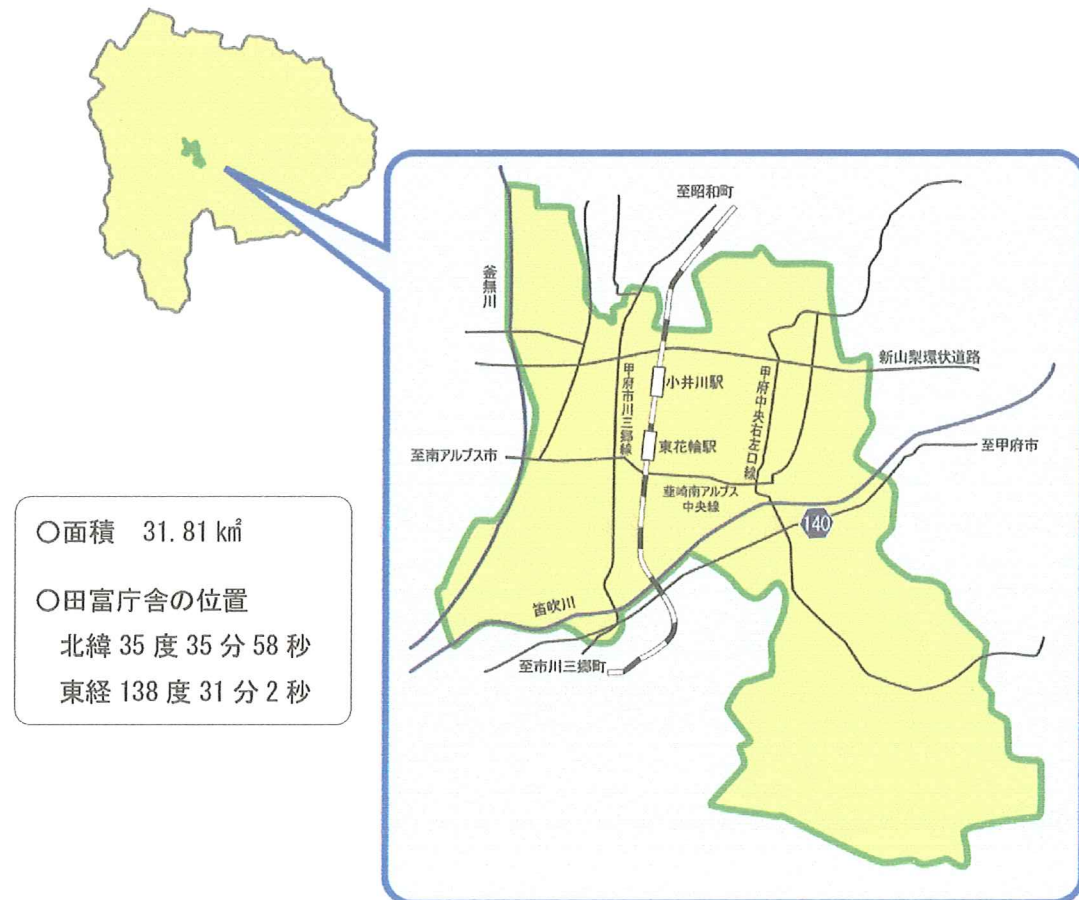
本市は甲府盆地の南西に位置し、東は甲府市に、北は昭和町に、西は南アルプス市に、南は市川三郷町に接しています。

釜無川により形成された沖積平野の地域と御坂山系からなる地域との二つの地理的特性を持っており、両地域は笛吹川によって隔てられています。平坦部は玉穂、田富の2地区が笛吹川と釜無川にはさまれた形で位置しており、豊富地区は山間部に広がる地域となっています。

交通面では、JR身延線が玉穂、田富地区の中間を南北に走っており、それに並行して主要地方道甲府市川三郷線が通っています。また、玉穂地区から豊富地区にかけて甲府中央右左口線が通っており、笛吹川に沿って走る国道140号線と交差しています。

本市の総面積は31.81 km²で、山梨県全体の0.71%を占めています。

■図表 2-1 中央市の位置

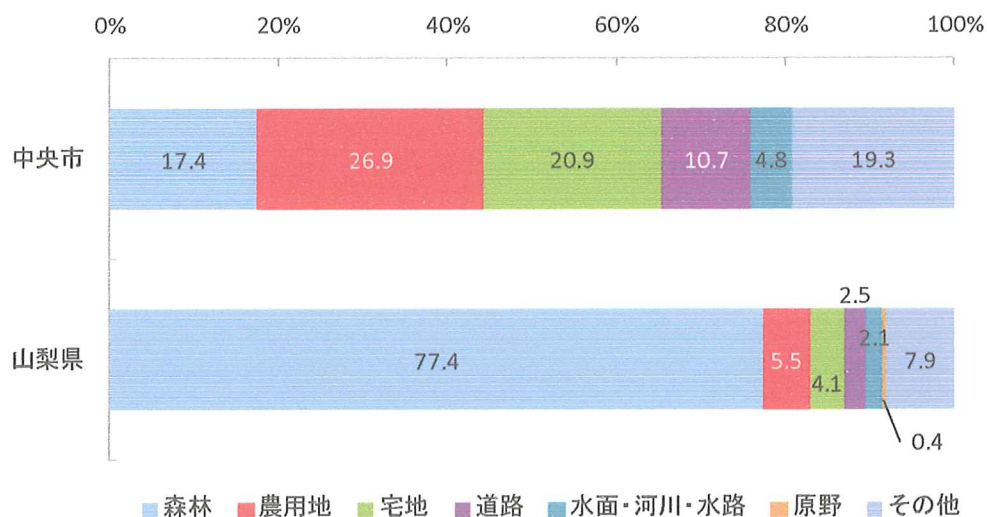


2. 土地利用の現況

本市の土地利用状況を構成比で見ると、「農用地」(26.9%)が最も多く、次いで「宅地」(20.9%)、「その他(公共公益施設等)」(19.3%)、「森林」(17.4%)となっています。

県全体との比較で見ると、森林の割合は低く、農用地や宅地の割合が高くなっており、居住や産業に利活用されている平坦地が多いことが特徴となっています。

■図表 2-2 土地利用の現況



出典:平成23年土地利用現況調査

注:調査時点は平成23年10月1日現在。「森林」は林道面積を含まないため、図表2-3の森林割合の数値とは一致しません。

3. 森林

本市の地形はほとんどが平地で、森林の地域は市の南部に集中しています。森林割合は約18%で、県全体の森林割合（約78%）に比べると比較的小さく、県内市町村の中では昭和町に次いで2番目に森林面積と割合が小さくなっています。

■図表2-3 森林の面積（森林割合の多い順）

市町村名	総面積(ha)	森林面積(ha)	森林割合
丹波山村	10,155	9,871	97.2%
早川町	36,986	35,260	95.3%
道志村	7,957	7,468	93.9%
小菅村	5,265	4,932	93.7%
南部町	20,063	17,649	88.0%
大月市	28,030	24,319	86.8%
鳴沢村	8,956	7,760	86.6%
都留市	16,158	13,620	84.3%
富士川町	11,198	9,194	82.1%
上野原市	17,065	13,994	82.0%
山梨市	28,987	23,698	81.8%
身延町	30,200	24,319	80.5%
甲州市	26,401	21,148	80.1%
西桂町	1,518	1,207	79.5%
北杜市	60,289	45,899	76.1%
南アルプス市	26,407	19,328	73.2%
富士河口湖町	15,851	11,475	72.4%
富士吉田市	12,183	8,514	69.9%
韭崎市	14,373	9,256	64.4%
甲府市	21,241	13,632	64.2%
市川三郷町	7,507	4,796	63.9%
山中湖村	5,281	3,092	58.5%
笛吹市	20,192	11,819	58.5%
忍野村	2,515	1,352	53.8%
甲斐市	7,194	3,152	43.8%
中央市	3,181	560	17.6%
昭和町	914	0	0.0%

出典：平成24年度山梨県林業統計書

注：調査時点は平成24年3月31日現在

■図表2-4 林種別森林面積

単位：ha

	総面積	森林総面積	国有林	県有林	民有林
中央市	3,181	560	0	186	373
山梨県	446,537	347,313	4,645	153,408	189,260

出典：平成24年度山梨県林業統計書

4. 気象

(1) 気温と降水量

平成 24 年の甲府地方気象台の観測値によると、月平均気温の最高は 8 月の 27.8℃、最低は 1 月の 2.2℃と 1 年を通じて寒暖の差が大きくなっています。また、降水量は 6 月が 168mm と最も多く、次いで 9 月の 143mm、3 月の 134mm となっています。それ以外の月は、冬場を中心に降水量は比較的少ない状況です。

■図表 2-5 平成 24 年甲府地方気象台観測値（気温・降水量）



月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量(mm)		16	90	134	75	40	168	88	79	143	59	60	55
気温(℃)	平均	2.2	3.5	7.8	13.8	18.4	21.8	26.2	27.8	24.7	17.4	9.7	3.8
	日最高平均	8.4	9.1	13.6	20.4	24.8	27.5	31.6	34.6	30.9	23.2	15.7	9.6
	日最低平均	-3.1	-1.5	2.9	8.4	13.2	17.9	22.7	23.6	20.4	12.7	4.4	-1.2

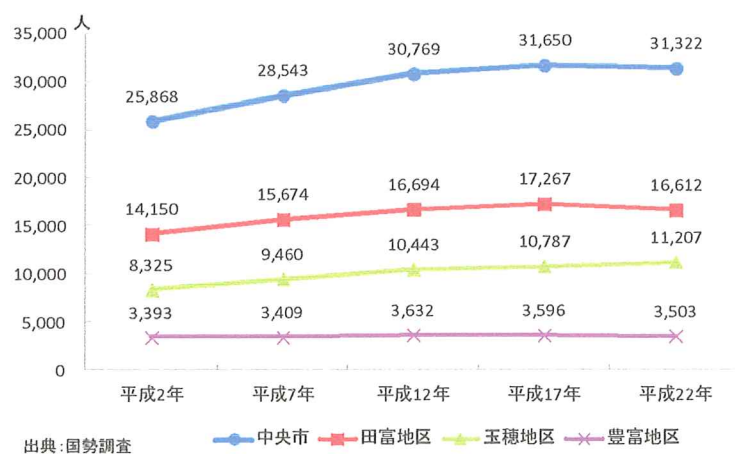
出典：山梨県気象・地震年報(甲府地方気象台)

5. 人口

(1) 人口の推移

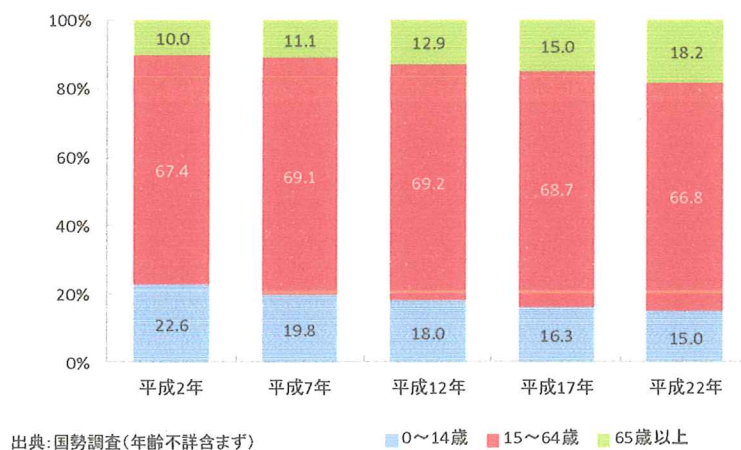
本市の人口は、平成 17 年までは一貫して増加を続けていましたが、平成 22 年の国勢調査では 31,322 人と減少に転じています。市内三地区の人口推移をみると、玉穂地区では微増となっているものの、田富地区と豊富地区では減少しています。

■図表 2-6 人口の推移



年齢3区分別人口割合の推移をみると、65 歳以上の「高齢者人口」の割合は年々増加する一方、年少人口の割合は逆に減少しており、少子高齢化が進行していることがうかがえます。

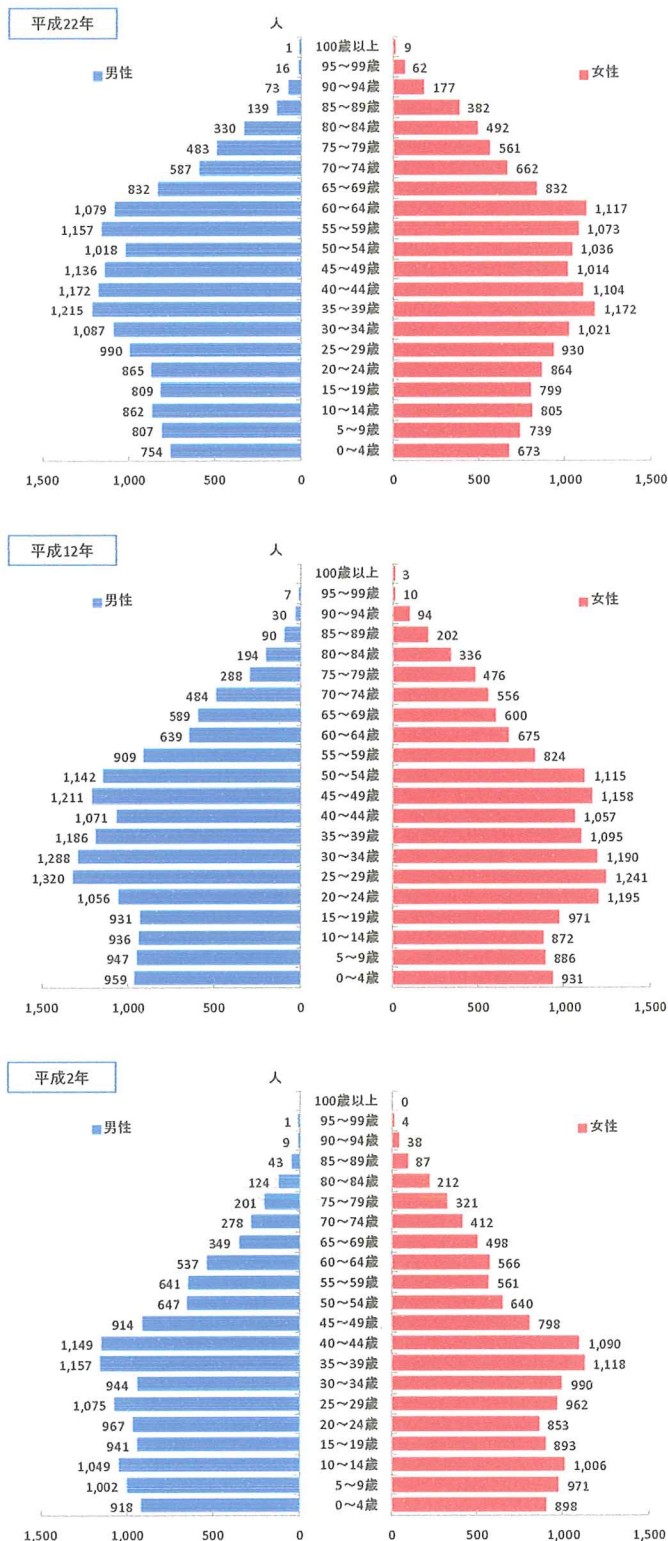
■図表 2-7 年齢3区分別人口割合の推移



(2) 人口構成の推移

本市の5歳階級別人口構成の10年ごとの変遷を人口ピラミッドでみていくと、平成2年には若年層から壮年期までが比較的バランスよく分布する「釣鐘型」の人口構成をしていますが、平成12年時点では年少人口の構成比がその上の世代に比べて小さくなりつつある状況がみてとれ、さらに平成22年時点を見ると、中高齢者の構成が高まり、少子高齢社会の特徴的な人口ピラミッド形である「つぼ型」の人口構成へと移行している様子が映されています。

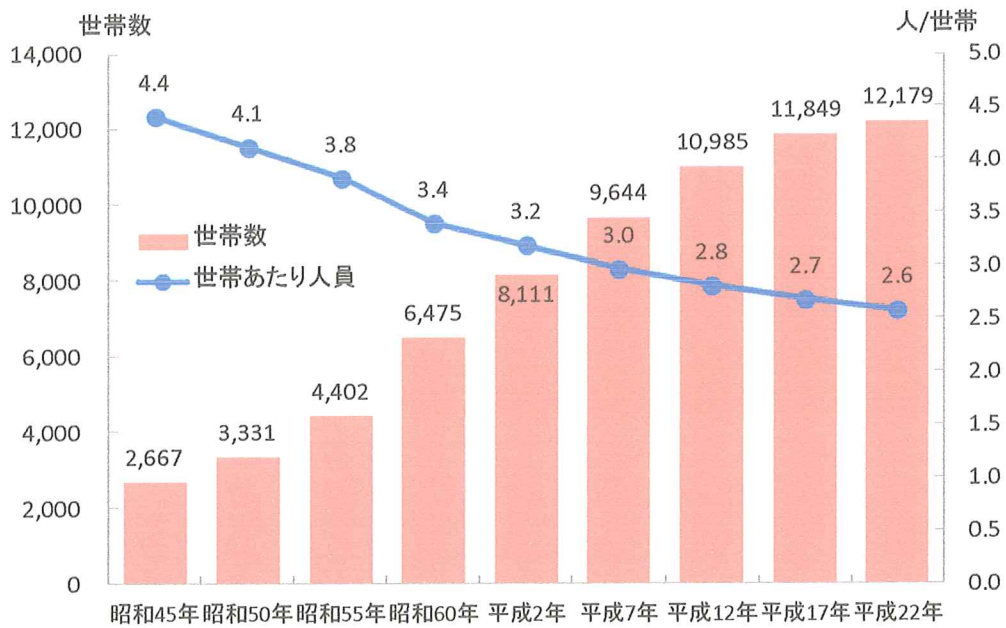
■図表2-8 人口ピラミッドの変遷



(3) 世帯数の推移

世帯数は年々増加するとともに、一世帯あたりの人員数は減少傾向にあり、核家族化の進行や高齢者の単身世帯の増加といった社会的状況が進行していることがうかがえます。

■図表 2-9 世帯数と世帯あたりの人員数の推移



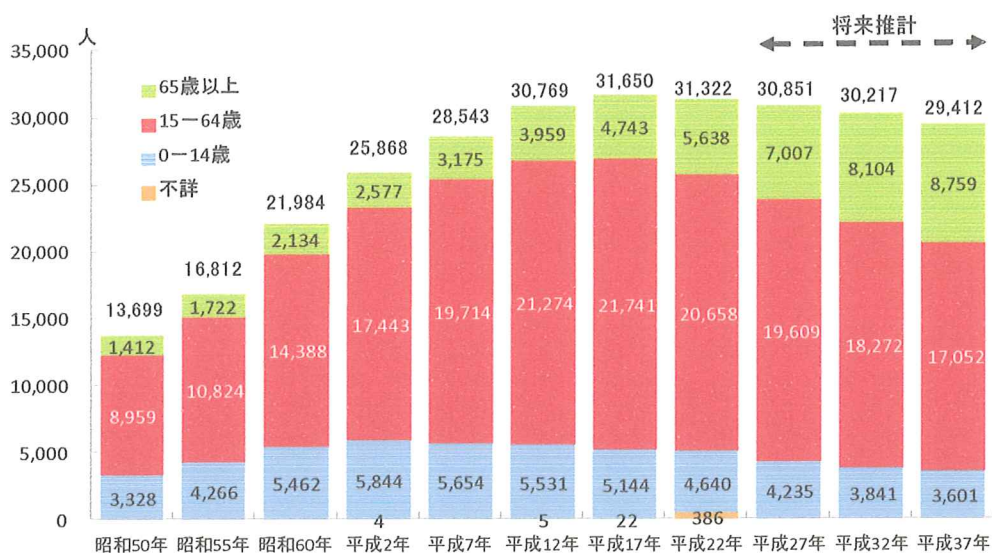
出典:国勢調査

(4) 人口将来推計

国勢調査の結果を基に、本市の将来人口を推計すると、平成22年に減少に転じてから、今後も減少傾向が続いていくことが予想されます。

年齢3区分ごとの内訳をみると、年少人口は減少を続け、平成32年には平成22年比で約17%減少する見込みです。また、生産年齢人口も今後は緩やかに減少していく見通しです。一方、高齢人口は急速に増加し、平成32年には平成22年に比べ約44%増える見込みとなっています。

■図表2-10 人口の将来推計



<国勢調査を基に推計>

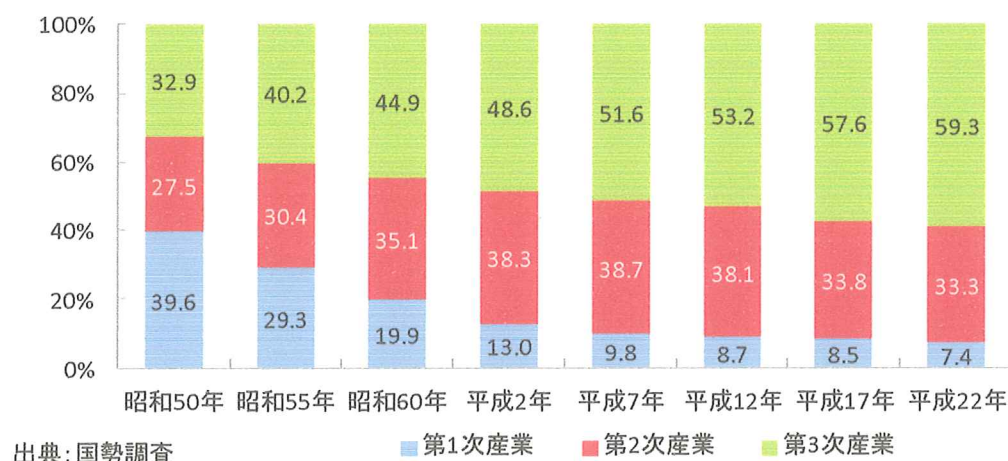
6. 産業

(1) 産業一般

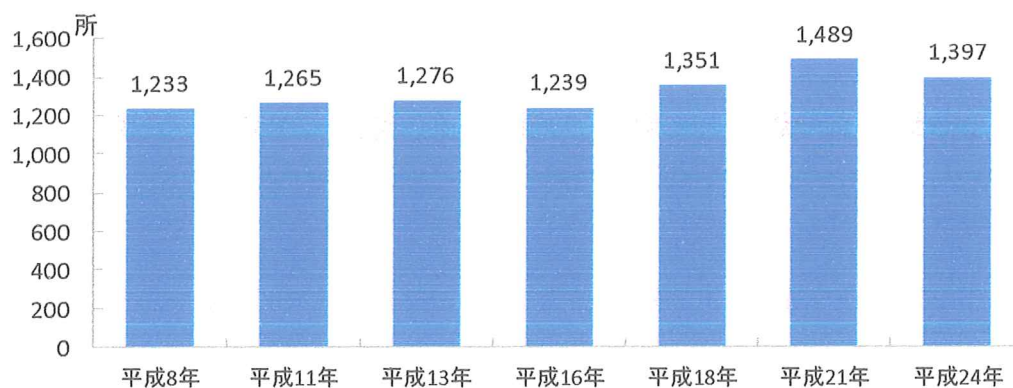
本市の産業別就業人口の構成比は、第3次産業が増加する一方で、第1次産業は減少傾向にあり、第2次産業は平成7年まで増加していたものの、近年は減少に転じています。また、昭和50年には第1次産業の割合が40%近くありましたが、年々低下して平成7年に10%を切り、そのかわり第3次産業が全体の半数を超えるようになりました。

民営事業所の立地状況をみると、平成8年以降横ばいで推移し、平成24年では1,397事業所となっています。

■図表2-11 産業別就業人口の推移



■図表2-12 事業所（民営）総数の推移



出典: 事業所・企業統計調査(～平成18年), 経済センサス(平成21年～) ※平成24年は速報値

(2) 商工業

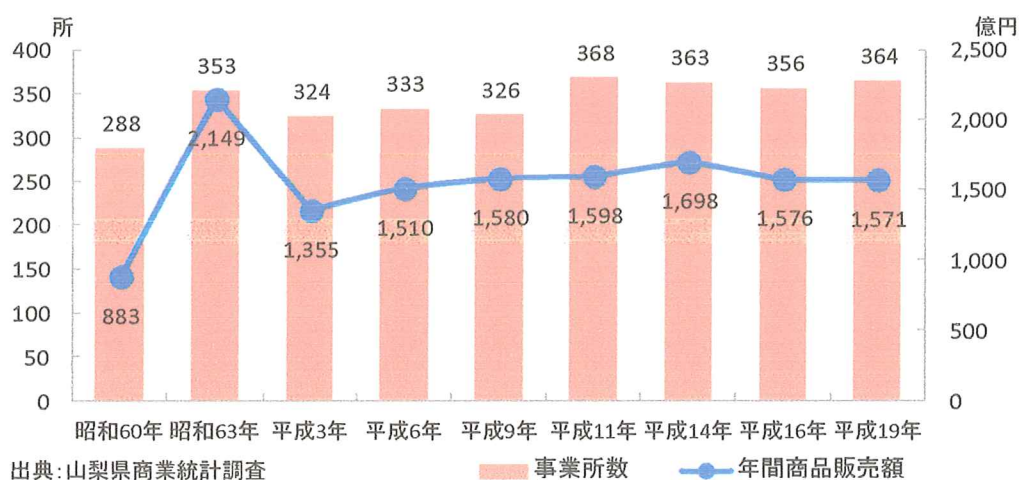
製造業では、事業所数は平成3年（86件）をピークに減少傾向にあり、製造品出荷額等*は平成16年以降、横ばいの状態が続いていましたが、平成22年には大きく落ち込みました。

商業関係の事業所数は、昭和63年から伸び悩みの状況にあります。一方、年間商品販売額は昭和63年に大幅に増え、その後減少して横ばいの状態が続いています。これは、昭和62年に甲府リバーサイドタウンに大型ショッピングセンターができたためと考えられます。

■図表 2-13 製造品出荷額等の推移



■図表 2-14 年間商品販売額等の推移



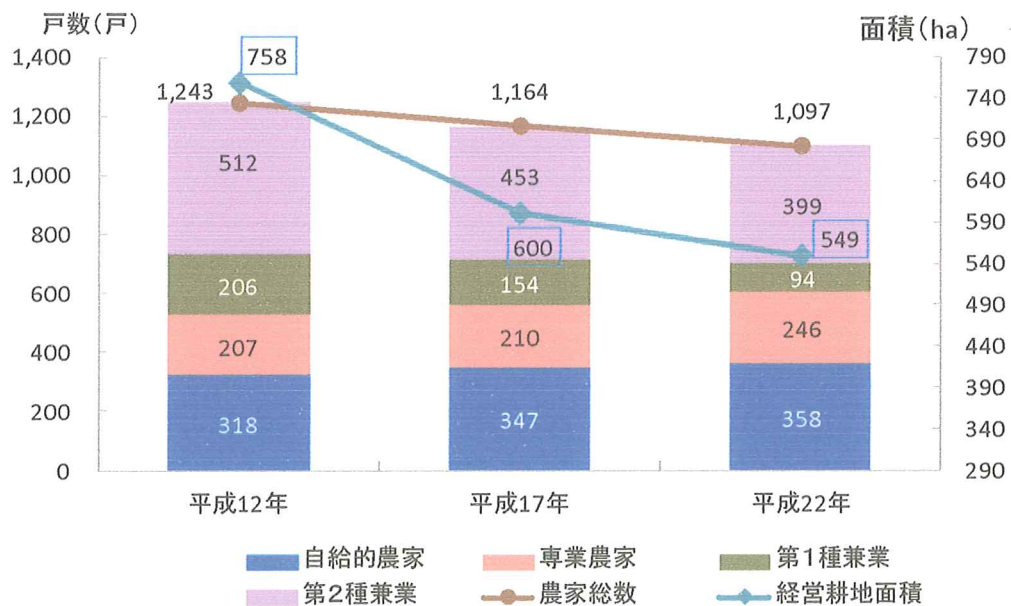
* 1年間の製造品出荷額、加工賃収入額、修理料収入額及びその他（冷蔵保管料、新聞広告料、製造工程から出たくず、廃物等）の収入額の合計をいいます。

(3) 農業

農業では、平成12年に農家数1,243戸、経営耕地面積758haであったものが、平成22年には農家数1,097戸と11.7%減少し、経営耕地面積についても549haと27.6%減少しています。

農家形態の内訳からみると、10年間で自給的農家と専業農家は増加していますが、第1種兼業農家（農業所得を主とする兼業農家）は54.3%減とおよそ半減しており、第2種兼業農家（農業所得を従とする兼業農家）についても22.1%減少しています。

■図表2-15 本市の農家数と経営耕地面積の推移

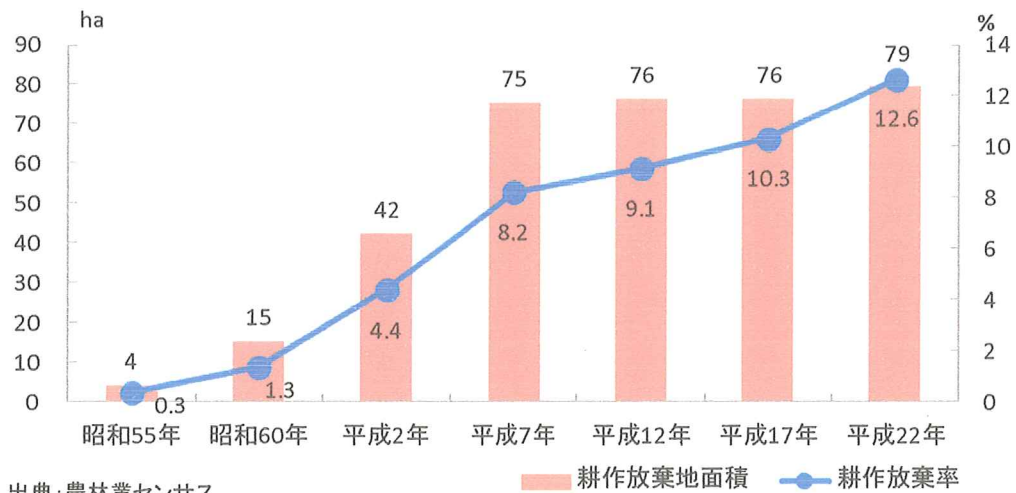


出典：農林業センサス

区分	農家戸数							経営耕地面積 (ha)
	総数	自給的農家	販売農家					
			専業農家	兼業農家				
				第1種	第2種			
平成12年	1,243	318	925	207	718	206	512	758
平成17年	1,164	347	817	210	607	154	453	600
平成22年	1,097	358	739	246	493	94	399	549

また、耕作放棄地の面積は、平成7年にかけて急増しましたが、平成7年以降はほとんど増えておらず、平成22年は79haにとどまっています。しかし、経営耕地面積の減少に伴い、耕作放棄率は上昇しています。

■図表2-16 耕作放棄地面積等の推移



出典：農林業センサス

[耕作放棄率＝耕作放棄地面積÷(経営耕地面積＋耕作放棄地面積)]

7. 自動車台数

自動車台数と1世帯あたりの保有台数は減少傾向にあります。内訳をみると、軽自動車については台数が増加してきており、普通車から軽自動車への乗り換えが進んでいる状況がうかがえます。

■図表 2-17 自動車登録台数の推移（二輪車は除く）



	合計台数			1世帯あたりの台数
	普通車	軽自動車		
H19	27,635	16,991	10,644	2.32
H20	27,508	16,523	10,985	2.30
H21	27,481	16,039	11,442	2.31
H22	27,454	15,772	11,682	2.30
H23	26,536	14,634	11,902	2.17
H24	26,521	14,500	12,021	2.17

出典：県勢ダイジェスト(関東運輸局山梨運輸支局・山梨県軽自動車協会データより)

8. 市内の主な公共施設

市内の主な公共施設には、次のものがあります。

○ 行政施設

中央市役所（田富庁舎、玉穂庁舎、豊富庁舎）、玉穂総合会館、田富総合会館、豊富郷土資料館、田富図書館、玉穂生涯学習館

○ 商業施設

道の駅とよとみ、農産物直売所 た・から

○ 小中学校

三村小学校、玉穂南小学校、田富小学校、田富北小学校、田富南小学校、豊富小学校、玉穂中学校、田富中学校

○ 保育園

玉穂保育園、田富第一保育園、田富第二保育園、田富第三保育園、田富北保育園、豊富保育園

○ 児童館

玉穂中央児童館、玉穂北部児童館、玉穂西部児童館、田富中央児童館、田富わんぱく児童館、田富ひばり児童館、田富杉の子児童館、田富ひまわり児童館、田富つくし児童館、田富すみれ児童館、豊富児童館

○ 保健施設

玉穂勤労健康管理センター、田富健康管理センター、田富保健センター、田富福祉センター、田富福祉公園コミュニティーセンター、豊富保健センター、豊富保健福祉センター、豊富デイサービスセンター

○ スポーツ施設

玉穂市民体育館、玉穂B & G海洋センター、田富市民体育館、田富市民プール、与一弓道場、浅利テニスコート、農業者トレーニングセンター

○ その他

玉穂学校給食共同調理場、(財)シルクの里振興公社、豊富農業者研修センター、田富小・中学校給食室、豊富中央公民館、田富よし原処理センター、豊富クリーンセンター、田富コミュニティ防災センター

■図表 2-18 市内の主な公共施設等

